

小学校第5学年 絵や立体、工作に表す活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。 ○活動したことや表現したものよきや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を深める。 【A表現(1)イ(2)イ】【B鑑賞(1)ア】〔共通事項〕
【題材名】	<h2>ワイヤーツリー</h2> <p>～富士山の頂上で見える幻の木～</p>
【題材目標】	○針金を曲げたり、巻いたり、つないだりする時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、それらの組み合わせによる造形的な特徴を理解し、これまでの経験や技能を生かしたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すようにする。 ○針金を曲げたりつないだりしてできた形や、それらを組み合わせでできた形や色などを基に、自分なりのイメージをもち、感じたことや想像したことなどから表したいことを見付け、どのように主題を表すかについて考えるようにするとともに、自分たちの作品の造形的なよきや美しさ、表現の意図や特徴について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるようにする。 ○主体的に表現したり、鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・針金を曲げたり、巻いたり、つないだりする時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、それらの組み合わせによる造形的な特徴を理解している。 ・これまでの経験や技能を生かしたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・針金を曲げたり、巻いたり、つないだりしてできた形や、それらを組み合わせでできた形や色などを基に、自分なりのイメージをもち、感じたことや想像したことなどから表したいことを見付け、どのように主題を表すかについて考えている。 ・自分たちの作品の造形的なよきや美しさ、表現の意図や特徴について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	・つくりだす喜びを味わい、主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

自分の感覚や針金を曲げたり巻いたりつなげたりする行為を通して、動き・奥行き・バランスなど材料を組み合わせたときの造形的な特徴を理解し、形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例 【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的
1 2	針金の特徴を生かしながら幻の木を効果的に表そう！ ○ペンチやラジオペンチで針金を曲げたり巻いたりしながら用具の使い方を確認する。 ・基本の技をためす ・新しい技をためす ○題材との出あう。 富士山を登り切ったときに見えると言われている幻の木の話を聞く。富士山の樹海にあった木の写真を見る。富士登山の経験からそれぞれの思いのこもった幻の木を針金でどのように表すことができるか考える。	<u>知・技</u> 針金を曲げたり、巻いたり、つないだりする時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、それらの組み合わせによる造形的な特徴を理解している。【観察・写真記録】	●	●	●
3 4	○針金の特徴を生かした幻の木の思いを基に、工夫しながら立体に表す。	<u>知・技</u> これまでの経験や技能を生かしたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 <u>思・判・表</u> 針金を曲げたり、巻いたり、つないだりしてできた形や、形を組み合わせでできた形や色などを基に、自分なりのイメージをもち、感じたことや想像したことなどから表したいことを見付け、どのように主題を表すかについて考えている。 【観察・写真記録】	●	●	●
5	○活動したことをお互いに見合う。	<u>思・判・表</u> 自分たちの作品の造形的なよきや美しさ、表現の意図や特徴について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	●	●	●

研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

本題材における3つの工夫について

【出あいの工夫】

- ◎最初に「針金とペンチでできる こんなこと」を紹介し、全員で実際に針金を曲げたり巻いたりつなげたりしてみたことで、針金とペンチの特徴や扱いを理解し、ワイヤーツリーを立体に表す場面でも曲げる・巻く・つなげるなどを使って活動している児童が多く見られ、進んで作品に表すことができた。
- ◎6月末に宿泊体験学習で富士登山を経験した。主題を「富士山の山頂で見える幻の木」としたことで、経験した全員が同じ土俵に立って取り組むことができた。また、登山中のスライドショーを見ながら自分たちが実際に経験して感じたことや想像したことを主題にどう表そうか主体的に考え、作品に表すことができていた。

【場の設定の工夫】

- △3種類の太さの針金を用意したが、2ミリのものは細かい造形活動には向かず、細かいパーツをたくさんつくりたい児童は曲げたり組み合わせたりすることに苦戦していた。針金の太さにも注目できるような声かけが必要だった。1.5ミリの針金の方が扱いやすそうだったので、量を増やしてもよかった。

【共感的支援の工夫】

- ◎教材研究で土台を円にすると立たせやすいことが分かっていたので、立ち上がらせる際に「こんなやり方もあるよね」と参考作品を見せた。参考作品があったことで多くの児童が簡単に立ち上がらせることができ、主題を表すために工夫する時間を多く確保することができた。
- △土台の参考作品を見せたことで、半分ほどの子が同じような土台になってしまった。一人ひとりがイメージするものに近づけるために主体的に活動できるように、立ち上がらせるための試行錯誤の時間をたっぷり取るようにしてもよかった。
- △ワークシートに自分がイメージする幻の木の特徴を書き込み、ワークシートを見ながら感じたことや想像したことを作品に表すようにした。感じたことをワイヤーツリーに表そうとする児童がいる一方で、針金を触ることに夢中で、書いたワークシートを基に活動していない児童の姿も見られた。常に主題に立ち返ってどんな活動をしているかを意識できるように、作成した動画をテレビでループ再生し、映しておいてもよかった。

【共通事項】の捉えと、そのための手立てについて

カラーワイヤーを組み合わせると主題を効果的に表す色を表現できることに気付いたり、針金の太さによる質感の違いに気付いたり、自分のイメージの質感に合う針金を選んでいたが〔共通事項〕の捉えが子どもにとって甘かった。「これって、360°から見たときの作品をつくるんだよね？」という児童の発言があり、立体的につくることが当たり前だと思っていたが、認識できていない児童もいた。途中で説明することで、立体的だと気付いたが、奥行きや動き、バランスまで目を向けられる子が少なかった。〔共通事項〕を捉えるためには、低学年からの積み重ねの必要性も感じた。

2. 「主体的で・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

- ・針金を1ミリ・1.5ミリ・2ミリと3種類用意したことで想いにあった表現をすることができた。材料を前方に置いておき、必要な分の針金を取りに向かうまでの間に、友達を見て、「それどうやってつくったの?」「これすごい!わたしもそんな風してみよう!」など、自然とつくりつつあるものを見あったり、興味をもって対話したりしている姿が見られた。図工室でお互いに作品を見合っていたので、立ち上がらせる時に「ちょっとここ支えてて。」や困っている時に「ここを繋げてみたらどう?」などの対話も生まれていた。ひとりだと考えつかなかったことでも、相談し対話することで新しい発想や新しい考えが生まれ、対話することのよさにも気付いていた。
- ・書いたワークシートを活用できていない児童がいた為、「山頂まで登り切ったとき、どんな木があったら嬉しい?がんばってよかったなあって思う?」と動画をもう一度見せながら声かけを行うと、「幸せの青い鳥が木にとまっていたらいいな。」と想像をふくらませ、主題を確かめ、どう表せばいいのか考えることができた。「ここはどうしてこの形にしたの?」「この色にしたのはどんなツリーにしたかったから?」と問いかけることで、「たくましい感じを表したかったから。」「青色は涼しいイメージだから、登り切ったときに見ると、スッキリした気持ちになる」と一人ひとりが効果的に針金を組み合わせることができていた。
- ・はじめに針金でいろいろな技を試す時間を設けた。活動を進める中で、「曲げる・巻き付ける・つなげるの基本の技から新しい技思いついた人いる?」と聞くと、「消しゴムに巻きつけて広げると、立体的なお花みたいなのができたよ!」や「2つのパーツを組み合わせるとお守りのようなのができた!」と次々に針金の形を変えようと主体的に活動に取り組む児童の姿が見られた。
- ・宿泊体験学習を基にした活動だったため、思いを表すことが苦手な児童も「自分が登ったときは、〇〇だったから〜。」と経験と結び付けて捉えることで発想や構想の能力や創造的な技能を働かせやすいことに気付いていた。